

## 平成29年度 第1回平塚市総合教育会議 議事録

### 開会の日時

平成29年10月5日（木）10時30分から11時43分まで

### 開会の場所

青少年会館 2階 集会室

### 会議の構成員

市長 落合 克宏 教育長 吉野 雅裕 教育委員会委員 田中 千勢子 同委員 水谷 尚人  
同委員 荒井 正博 同委員 林 悦子

### 関係部課長等

学校教育部長 今井 高司 教育指導担当部長 深谷 昇平 社会教育部長 高橋 勇二  
教育総務課長 中戸川 泰彦 教職員担当課長 岩田 裕之 学校給食課長 戸塚 清  
教育指導課長 工藤 直人 教育研究所長 高橋 浩也  
子ども教育相談センター所長 小松 且幸 社会教育課長 久保 利秋  
スポーツ課長 石塚 誠一郎 教育総務課教育総務担当長 関野 良真  
教育総務課企画担当長 斗澤 正幸 スポーツ課スポーツ担当長 市川 豊

### 事務局

総務部長 柏木 道之 行政総務課長 宮崎 博文 行政総務課行政管理・統計担当長 森川 芳章  
行政総務課行政管理・統計担当主査 五十嵐 雅史 教育総務課教育総務担当主査 藤井 恒平

### 傍聴人

0人

### 会議概要

次のとおり

#### 1 開会

##### 【総務部長】

本日はお忙しい中、平塚市総合教育会議に御出席をいただきありがとうございます。

これより、平成29年度第1回平塚市総合教育会議を開催いたします。

本日、協議・調整事項、報告事項以外の部分につきまして進行を務めさせていただきます総務部長の柏木と申します。よろしく申し上げます。

会議を始めるに当たりまして、配布資料の確認をさせていただきます。

次第と構成員の名簿がございます。資料1といたしまして、38ページものの「平塚市学校給食検討委員会報告書」がございます。資料2といたしまして「県内市町村の中学校昼食の状

況について」でございます。それから資料3「中学校給食の実施状況」横版でございます。そして、資料4「平成28年度7月 評価調査」でございます。それから資料5「リトアニア共和国について」、そして色刷りのものですが、「リトアニアを通して国家の成り立ちを考える」という神奈川県湘南ひらつかキャンパスで実施されますリトアニアデイズの案内ですが、過不足はございませんでしょうか。

早速で恐縮ですが、資料の一部訂正をお願いします。資料5でございます。リトアニア共和国についてというものがございます。この項目番号2 平塚市とのこれまでの経過のところの、3行目 平成29年4月 リトアニアオリンピック委員会による市内施設の実施とありますが、平成28年4月と訂正をお願いします。それから5行目平成29年10月 リトアニアオリンピック委員会、神奈川県、平塚市の3者でという記載のところですが、平成28年10月と訂正をお願いします。

それでは、開催に当たりまして、始めに教育委員の変更がございましたので御紹介させていただきます。9月30日に浅沼 徳子氏が退任されました。10月1日からは後任として林 悦子氏が任命されております。では、林委員から御挨拶をお願いします。

#### 【林委員】

この10月に教育委員を拝命いたしました、林 悦子と申します。私は神奈川大学の経営学部にも所属しております。平成21年から一度教育委員を務めさせていただいたことがございますが、その時とは全く性質の新しい課題、新しい出来事がどんどんあがってきています。日々私が大学におりまして、今年の大学1年生からは、ゆとり教育を卒業した学生が入学してきています。まだ顕著な違いというのは判りませんが、そうした土台である義務教育の在り方について、いろいろとお教えいただきながら考えていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

#### 【総務部長】

ありがとうございました。続きまして、開催に当たりまして落合市長から御挨拶申し上げます。

## 2 平塚市長 挨拶

#### 【市長】

皆様おはようございます。市長の落合です。皆様には、平成29年度第1回平塚市総合教育会議に御出席並びに日頃から平塚市の子どもたちのために御尽力をいただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

市内の小中学校では明日（10月6日）から秋休みになりますが、休みを楽しむ子どもたちの顔が街にあふれるのかと思っています。

今年度、平塚市では将来を担う子どもたちへの投資、また教育や子育て支援に力を入れさせていただいております。校舎の大規模改修も計画的に進み、また普通教室へのエアコンの導入などハード面をしっかりとしないといけないと思っています。あわせて、教育相談員や介助員などマンパワーへの強化をしっかりとしていきたい。また、子どもの貧困が問題となっており、貧困

に対して、教育指導等を含めて貧困対策などのソフト面での対応を行い、子どもの健やかな成長を図っていきたいと考えています。既に4月から動き出した施策もありますが、市の取り組む教育環境の充実が子どもたちの笑顔につながって、一定の効果が上がるのかと期待をしているところです。

さて、今日の協議・調整事項につきましては、「中学校昼食」でございます。以前から委員さんとは中学校昼食の現状と課題を共有してきましたが、食については、子どもたちの成長には欠かせないものであるため、今回も今後の方向性につきまして、委員の皆様と意見交換をしたいと思っています。

それから、報告事項につきましては、先日リトアニア共和国カウナス市の教育訪問団が平塚に来られまして、教育委員会に対応をしていただいたところですが、教育関係の視察をした折のいろいろな様子につきまして報告をいただくとともに、私からは9月21日から26日までリトアニア共和国を訪問させていただき、いろいろな関係各位と実際にお会いをしてこれからの交流等について話し合いをしてきました。交流の考え方についても報告をさせていただければと思っています。

結びに本日の会議が平塚市教育大綱の基本理念に決めました「未来の礎を築く教育のまち平塚」この実現に向けまして意義あるものになりますよう、どうぞ皆様には活発な御意見を賜りますようお願いして、挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【総務部長】

ありがとうございました。それでは、次第 3 協議・調整事項に移らせていただきます。ここからは平塚市総合教育会議設置要綱第3条の規定に基づきまして、進行を市長にお願いします。

### 3 協議・調整事項

#### 【市長】

それではここからは、私が進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。では、次第に沿いまして進めさせていただきます。(1) 中学校昼食について、事務局から説明をお願いします。

#### 【学校教育部長】

それでは中学校昼食について私から御説明いたします。中学校昼食については、本市の学校給食施設の老朽化や衛生管理基準の強化等、学校給食の今後の在り方等について検討するため、平成23年7月に「平塚市学校給食検討委員会」を設置し、その後、平成24年12月までの間に、計8回の検討委員会と1回の視察を行い、報告書を提出いただいております。

その中で、「中学校給食」についての検討も行われ、その結果、家庭からの弁当と業者の販売弁当を併用する「平塚方式」を採用することとなり、現在に至っています。

今年度については、前回の検討から早5年が経過しており、また生徒数の減少など学校を取り巻く環境が大きく変化してきていることや県内において中学校給食を実施する自治体が増えてきたことを踏まえて「中学校昼食検討委員会」を設置したところです。近年の状況はこのよ

うな状況です。

**【市長】**

ありがとうございました。事務局から「中学校昼食」についてこれまでの流れ等の御説明いたしましたが、これにつきまして委員の皆様から御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

**【水谷委員】**

メディアからの情報等を見ても、神奈川県では圧倒的に中学校給食の実施の率が低い状況がなぜ起こっているのかがわからない。今後どうするかを検討するに当たり、実施率の低い背景を知ることは重要なことと考えるので、分かる範囲で教えていただきたい。

**【市長】**

委員から県下の実施率が低い、この背景が分かればという御質問でしたが、事務局が分かる範囲で教えていただければと思います。

**【学校教育部長】**

一般論としては、神奈川県におきましては、かつての高度経済成長時代、人口が急増し、児童生徒数も大変な勢いで増加していった状況でありました。本市においても昭和40年代後半から50年代にかけて小中学校の増設が行われました。そういったハード面の設置への対応が優先され、給食施設まで余力が回らなかったという風に聞いておりますし、我々もそのように認識しています。

**【市長】**

背景としては、高度成長期において、校舎建設や体育館などの施設整備が優先され、給食設備までがお金を含め、力を入れていくことができなかったということだろうと思います。確かに神奈川県内でも横浜、川崎など大きく人口が増加したところでは給食の未実施という率が高いといった状況であり、平塚もその例外ではなかったというお話でした。

**【水谷委員】**

ありがとうございました。私も高度経済成長期の小中学生であり、給食を食べてきた世代ではありますが、他の県内市町村でもほぼ同じ状況であるので、意思を持ってそうされたということで理解します。今後はその背景は考えずに行きたいです。もう1点、去年実施したアンケート結果で、中学校給食の実施に対し誰がそれを望み、なぜそのような声が大きくなるのか、関心があります。

**【市長】**

アンケート結果の中で中学校給食を希望する理由、また希望しない理由で特徴的なものがありましたら事務局から説明をお願いします。

#### 【学校教育部長】

希望するについては共働き家庭からが多く、これは当然のことと捉えております。今後の見通しとして労働力がこれからどんどん不足していくであろうということが言われています。先般の本市総合計画を策定する際にも、M字カーブといった労働力が極端に落ちるといった世代があるといったことも言われています。

今後も共働きの家庭は増えていくものと考えており、給食を望む声は今後も増え続けるのではないかと考えています。

#### 【市長】

働く世代が減ることもあり、今後は共働き世代が増えるので、給食を望む声は今後も増えていくであろうというお話でした。

#### 【荒井委員】

給食のメリット、デメリット、家庭弁当のメリット、デメリットそれぞれあると思うが、財政的に許されるならば、完全給食を行うことについて賛成ではありますが、市長からのお話にもあるとおり、平塚市では現在エアコン設置等の設備改修を実施しており、いろいろとお金がかかっていると思います。単年度で済む内容ではなく、長い期間をかけて実施をしていかなければならない内容で、少し時間をかけて検討するものと考えます。

私は家庭の弁当は良いと考えています。母親が心を込めて作ってくれるというのがいいことではないかと思っていますが、当時は貧しくて弁当にちょっとおかずがあるくらいではあったが、それでも心を込めて作ってもらえたと感じています。そういうことも大切であると思っています。

#### 【市長】

荒井委員から給食、家庭弁当それぞれメリットデメリットがある。しかしながら荒井委員の視点から家庭弁当の意義もあるのではないかと御意見でした。御指摘いただいたように財政的に非常に厳しいので何でもかんでもできるものではありません。子どもは将来の宝ですから、その先行投資という意味では、教育に対し私、教育長もそうですが、教育環境の整備を少しでも良くしたいと進めています。しかし、現実問題として全てを整備することはできないので全体最適を考えながら進めていこうと思っています。

平塚市では、平塚方式という家庭弁当と当日の朝でも弁当の注文ができるといった形の併用で整えております。デリバリー方式ですと、ある一定期間前に事前に注文をしなければなりません。共働きの家庭のことを考慮した平塚方式では、当日の朝でも弁当の注文ができるといった形をとっており、非常に有効な制度ではないかと思っています。

業者弁当の併用について、給食をやらないといったことではなく、現状の中で一番いい手法で行っていることについては評価をいただけるのではないかと考えています。

#### 【田中委員】

市長や荒井委員のお話をごもっともだと思いますし、平塚方式は導入から4年経過し、家庭弁当が用意できない場合も昼食を提供できるといった点では、一応落ち着いてきたのかなと感じています。

アンケートでは新しいメニューについての要望もあるようですが、今のままでよいというのが74.7%であり、子どもの成長の度合いを勘案しつつ作るなど、家庭弁当のメリットを生かしながら、業者弁当を併用する現在の方式は良いことと考えます。

ただし、私は給食を実施しないことを前提に考えていました。中学校の給食では配膳等に時間がかかり、授業時間等の確保に影響を与えるのではないかと、新たに給食施設を作り運営するとなると非常にお金がかかるので、実現不可能だろうと想像できたからです。全国では予想以上に完全給食を実施している状況が分かり、また県内でも実施する市町村が多くなってきているといった状況を知ると、予算面がクリアできれば実施が可能ではないかと考えるようになりました。長年、小学校教員として給食を食べてきた者として、給食は食生活のお手本であり食育という点では子どもたちへの教育効果が非常に大きく、将来にわたって大きな影響を及ぼすのではないかと考えています。

しかしながら、完全給食となると莫大な予算が伴うので、どのくらい費用がかかるのかを教えてくださいたい。

#### 【市長】

食育を含め給食の重要性を田中委員に御指摘をいただきました。

仮に給食を中学校で実施するとなった場合、どのくらいの費用がかかるのかを分かる範囲で事務局から説明をお願いします。

#### 【学校教育部長】

正確な試算は行っていませんが、概算の数字ということでお話をさせていただきます。

中学校で給食を実施するということになりますと、給食を作る施設の整備が必要です。小学校においては東部及び北部の給食調理場がありますが、これは小学校の給食を作るということが前提で設計整備されているもので、現存の調理場に新たに中学校用の施設を新たに加えるということは技術的に難しいと考えています。そのことから中学校用の共同調理場を設けなければなりません。あるいはそれぞれの中学校で調理場を設置するといった対応が考えられます。仮に共同調理場を整備するとした場合、他市の例などを参考にすると40億円を上回るくらいの費用が必要になるものと考えています。先般検討委員会のメンバーで小田原市の中学校を視察しました。学校内においてもエレベータや配膳を受け入れる配膳室の設置などの施設面での整備が必要となります。各学校にもかなりの改修費用がかかるということになります。

このようなことからかなりの予算を必要とすることは事実であります。また、当然運営管理の費用も掛かってまいります。

#### 【田中委員】

かなりの予算がかかることが分かりました。これまでのお話の中で、エアコン設置などの施

設改修を行うとともに教職員への対応や教材の充実など様々な要求がある中、教育予算の配分というのは難しいと感じます。重点施策をどこに置くのか、十分に吟味しながら検討していくことが必要だと感じました。

**【林 委員】**

私が以前教育委員を務めていた時、平成23年3月に中学校の給食実施は難しいのではないかという結論に至ってから、5年以上が経過しておりますので、今、田中委員から食育の重要性の話がありましたが、私も重要と思いますし、小学校の給食は栄養のバランスもとれていて、おいしいです。給食を中学校で実施するとなると、中学生は成長が著しい時期にもありますし、予算の課題もありますが、中学校で実施すると仮定した場合に、現場としてはどのような課題があるかをお聞きしたい。

**【学校教育部長】**

学校現場での課題ということでございますが、給食を実施する時間を確保することが現実の問題として非常に大きい問題と認識しています。現在の時間割をいじらないと給食の配膳等の時間が生み出せない状況となっております。現在でも授業時間や部活動の時間などを確保するのが困難であり、切実な問題であると認識しています。もう一つは給食を実施するとなると異物の混入やアレルギーへの対応、給食費の未納に対する対応、残食への対応などへの対処が発生するものと考えています。

**【林 委員】**

時間的な問題がかなり大きいことが分かりました。資料を拝見すると、朝の部活動の練習を行うと弁当を注文できないため、自分で持ってくる生徒がいるようです。そうでない場合は地域のコンビニの弁当やおにぎりの活用が一般的ではありますが、コンビニ等との協力関係は、どのようになっているかを伺いたい。

**【学校教育部長】**

生徒に様々な家庭の状況がある中で、コンビニエンスストアの存在は欠くことのできない状況であると認識しています。学校においてはコンビニエンスストアで弁当等を買ってくることについて、推奨したり、妨げてはいません。家庭や生徒の判断に委ねられている状況です。

平塚方式において、実際に弁当を作っている業者には、コンビニエンスストアで店内に調理施設を有する業者が入っており、我々としては欠くことのできない業者になっています。

コンビニエンスストアやチェーン店の弁当屋は、現在の平塚方式を運用する上で、大きな力となっています。

**【林委員】**

地域経済との連携が非常に重要であることが分かりました。

## 【教育長】

神奈川県内の中学校給食実施率について25%となっています。都道府県別の順位で最下位であります。46位の高知県では62%となっており、非常に差がある状況です。横浜や川崎といった政令指定都市の実施率が低いといったことが大きい要因です。完全給食の良いところは栄養のバランスが良いところです。朝食を食べない生徒が多い中で、ある調査によると貧困の家庭では炭水化物の摂取量が多く、収入が多くなるとたんぱく質やビタミンなどの摂取も増えてきて、バランスが良くなってくる。そういう意味では栄養士が考えた献立で作る給食は栄養バランスの上でも良いことなのかと考えています。

しかしながら、予算の問題や弁当のメリットといった点、アレルギー対策などを含めて、丁寧に検討しながら一番良い方法を検討していきたいと考えています。

## 【市長】

ありがとうございました。各委員から意見をたくさんいただきました。今日は中学校給食の課題と今後に向けた注意点なども浮かび上がってきたのかと思っています。いただいた意見等については検討委員会でも共有し、議論をしてほしいと思っています。

平成23年度から市長となり、市民から中学校での給食実施は必要ではないかといった意見はいただいております。しかしながら、教育関係とも協調しながら様々な政策を進めていく中で、まずは教育環境の充実を優先させていただきました。当時、学校を訪問すると雨漏りがいっぱいあって子どもが歩ける状況でない学校もあり、まずは安心して教育が受けられる環境の整備を行おうと思った次第です。もう1点、支援を要する子どもたちが増加しており、学習支援補助員さんなどのマンパワーの充実に力を注いできました。

児童生徒数が非常に少なくなっている現在、次の教育関係への予算付けについて検討をしないとイケない時期になっていると認識しています。社会情勢、財政的背景などを踏まえながら、次のステップをどのような方向で進めるかを検討委員会で検討をしていただけるとありがたいと考えております。

それでは、協議調整事項（2）その他に移らせていただきます。何か委員さんからございますか。

特になしということですので、次の4 報告事項に移ります。「リトアニア共和国カウナス市教育訪問団視察」について事務局から報告をお願いします。

## 【学校教育部長】

概要について説明をさせていただきます。

2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催を受けまして、リトアニア共和国に対して、事前キャンプ誘致を進める方針として、平成28年1月に、平塚市が参加国・地域との相互交流などを目的とした「ホストタウン」の登録を受けました。

その後、平成28年10月に、リトアニア共和国オリンピック委員会と神奈川県、平塚市の3者で事前キャンプに関する協定を締結しました。これを受けまして、平塚市では、平成29



年4月に「ひらつかリトアニア交流推進実行委員会」を設立しまして、事前キャンプの受入体制の整備、またホストタウンとして様々な分野での交流に向けて、推進している状況です。

今回のカウナス市教育訪問団の視察についても、交流事業の一環ではありますが、平成28年11月に、リトアニア共和国の駐日大使御夫妻が、港小学校を訪問され、リトアニア給食などの交流を行い、平塚の教育が素晴らしいとの感想をいただいております。このことを受け、教育分野での交流について、検討を進めていく中、平成28年12月に、リトアニア共和国のカウナス市から、小学校との交流について打診があり、9月11日から16日までの期間において、市内での視察を受入させていただきました。

視察2日目には、教育研究所、教育会館、子ども教育相談センターといった教育施設や、県立ろう学校及び盲学校を視察され、3日目には、博物館、美術館といった社会教育施設や、県立養護学校、こども発達支援室くれよんを視察されました。4日目には、港こども園、港小学校、太洋中学校、この4月に開設された県立子ども自立生活支援センターを視察されました。港小学校では、ニュースポーツであるボッチャの体験や給食での交流を実施しました。

視察期間中は、天候にも恵まれたこともあり、予定されていた行程どおり終了し、訪問団の方々からは、平塚及び日本の教育制度への高い関心を示されておりました。

## 【市長】

ありがとうございます。事務局からリトアニア共和国カウナス市教育訪問団視察について説明がありました。昨年、リトアニア共和国のホストタウンに登録されてから、当時のメイルーナ大使が何度も平塚を訪問され、その際一度はリトアニアに来てほしいとの話がありまして、昨年9月に井上副市長を団長とした訪問団を派遣しました。その際カウナス市の教育委員会から日本の教育についていろいろ学びたいことがあるとの話をいただいております、早速今回の訪問となり、教育委員会に対応いただいたところです。

9月21日から私もリトアニアを訪問しリトアニア共和国の自治体との交流について、またリトアニア共和国オリンピック委員会とのオリンピックの事前キャンプや10月に選手30名役員等総勢50名程度の方が平塚を訪れるテストキャンプについて話をしてきました。

リトアニア共和国はバルト三国の一つで、もともとロシアに併合されていた国でありまして、独立後エストニア、ラトビア、リトアニアとなりました。公用語はリトアニア語であり、この言語はサウスプリット系でインド系の言語となっています。国土面積は65,300km<sup>2</sup>で北海道の約80%、人口約300万人。EUに加入し通貨はユーロとなっています。今回訪問した、アリートゥスでは、経済、文化等の包括的な交流について話合いをしてきたところです。リトアニア国内ではオリンピックのPRを行うため毎年行っているオリンピックデーを来年実施するパネヴェジースでは、PRについて話をしてみました。カウナスでは教育についての話をしてきました。カウナスでは現地の副市長を始め関係者が、平塚や日本の教育が素晴らしいとのことで、ぜひ教育での交流を進めたいとの話をいただきました。何が素晴らしいのかを尋ねてみると、給食の際、みんなの分を配膳することや生徒児童が自分の教室を清掃することに驚いたと言っておりました。これらをカウナスの学校でまずは導入をしていきたいと話をしていました。

あと歴史上の背景もあり、日本でいうと高校2年生くらいまでの教育は、国や自治体が受け

持つことが多く、子どもたちも教育を受ける環境を整えるのは国や自治体という意識が強く、教育の魅力・特徴付けの部分で、日本から多くのことを学んでいきたいとの話もありました。

また、日本への関心が高まっており、日本に子どもを派遣し、いろいろと学ばせたいとの話もあり、交流の中で関係を深めていった結果、そういうことができると良いと思った次第です。

リトアニア人は、現在カトリックですが、もともとは自然崇拝であったり、勤勉等日本人と共通する部分を有する国民性があり、また、ユダヤ人に対し「命のビザ」を出したカウナスの領事館にいた杉原千畝の存在もあり、日本に対し、差別的ではなく、尊厳、敬意を払ってくれています。今後はお互いの教育の良いところ認めながら進めていければと思っています。

アリートゥスとは神奈川大学と交流提携をしているコロニア大学があり、具体的に交流を進められればと思います。神奈川大学（KU）の関係では、カンザス大学（KU）のあるアメリカのカンザス州のローレンス市と姉妹都市提携を28年続けています。アリートゥスとは今後具体的に交流を深め、子どもたちとの交流も考えていきたいと思っています。

ホストタウンへの名乗りを上げたのは、オリンピックという大きなプロジェクトで平塚市が何ができるのかということもありますが、子どもたちにトップレベルのものを見てもらえるなど、ホストタウンが子どもたちにとって有意義な取組にしていきたいという思いからですので、それがかなうよう取組を進めていきたいと思っています。

#### 【田中委員】

市長の話に興味深く聞かせていただきました。リトアニアの方が日本を訪問されての感覚というものも勉強になり、リトアニア人への親しみが湧いてきて、これから交流を図りたいという気持ちになりました。

リトアニアとの相互交流というのは、教育にとっても貴重な機会となるのではと捉えています。子どもにとって生活の場面で外国の方は珍しいものではないですが、今回のリトアニアはあまりなじみのある国ではなく、聞くもの、接するもの全てが新鮮に映り、子どもたちも興味を示すのではないかと思います。既に一部の学校では直接接する機会があったようですし、七夕まつりにおきましてもリトアニアのダンスが披露され、文化の違いや魅力を感じることができました。

私は、青少年問題協議会の委員を担ってきた中で、今年ローレンスへの青少年派遣への選考に関わりました。応募した中高生は、英語の力を高めていきたいとか、将来世界で通ずる仕事をしたいとか、大変前向きな姿勢を示しています。また、派遣後も多くの青少年が積極的に国際交流に関わっていると聞いております。これまで培ってきたローレンスとの交流の成果を生かしながら文化交流など含めながらも新たに北欧の国を加えての交流、実際に生活を体験できるということも加味していただけるとありがたいと思います。

#### 【荒井委員】

いろいろな外国の方と接することは、大変いいことです。前回の東京オリンピックの時はたいへん刺激的でした。私はリトアニアという国には馴染みはあまりないが、杉原千畝さんの言葉に感激しています。

今回、たまたま日本からリトアニアにボランティアが行きまして、領事館がボロボロだった

のを直したとの報道に触れました。現地のペンキでうまく塗れなかったですが、期日内に塗り終わり、現地の人々が感激したと書かれていました。

日本の教育はいろいろなところで見直されており、東南アジアとかアメリカなどでも取り入れられています。とにかく思いやりというのが一番大切であると思います。これからも子どもの交流をいろいろな国とどんどん進めていってほしいと思います。私も検診をやっていると、ここ20年くらいは外国人も非常に多いです。小学校には必ず1、2人はいます。アジアだけではなく、中南米などいろいろな方がいます。日本人と同じようにやっているとは思いますが、そういう時代になっていきます。将来的には、日本人はこれから人口が減ってきて、外国の力が必要となってくるので、とっても良いことと思います。

#### 【水谷委員】

市長が非常に楽しそうにお話されておりまして、非常に充実していたのではないかと思います。たまたまですが、ベルマーレでも経済産業省のインターンシッププログラムを利用してインドネシアの人が来ています。受け入れている目的は同じ空間に全く常識が違う人がいたり、言葉が違う人がいるということで、英語を学ぶということは初歩の初歩であります。それがどのように通じるかということを感じてほしい、触れてほしいということテーマにやっています。本日、木曜日はインドネシアでは伝統衣装を着る日で、今日はその装いで会社に来ることになっています。会社の中ではその装いは何ということになり、その彼にとっては掃除や配膳をしないことは常識であり、良いか悪いかではなく、そういう常識もあるということを知ってもらうことが本当に大切であると感じています。日本の事を知りたいという要望に対し、まさに市長がおっしゃったフラットな目で見てもらえることは非常に嬉しいことで、アングロサクソンの国に行くとなんとなくの目線を感じるがあります。また反対に日本がアジアに出たときは、そのような目で見ていないのか。上から目線でなく同じ情報を共有することができればいいのではないかと思います。

もう一つ、縁ができた場合は継続していくことが大切であり、オリンピックが終わった後も交流が継続し、将来子どもが成長し、その子どもが政治家でもいいし行政マンでもいいし、民間で務めることもいいですが、その時リトアニアではなくラトビアで仕事をしたいとき、当時リトアニアにいた人と情報交換ができ、仕事ができるような世界が生まれてくると、本当に日本がグローバルになっていくことだと思う。そのような世界が実現すると思います。ベルマーレの事業についても、リトアニアから多くの人々に来てもらいたいと思います。

#### 【林委員】

私は、10月2日に辞令をもらいまして、その際市長がリトアニアの話をしたとき、市長から本当に楽しそうにお話を伺いました。私も、にわか勉強ですが、リトアニアについて勉強しました。神奈川大学でも「国家の成り立ちを考える」という大上段に構えたテーマでどの程度できるかがわかりませんがイベントを実施します。神奈川大学としては協定校が3校ほどありまして、お互いに数は少ないのですが、学生が長期滞在をしています。長期に住むことによって、人々との交流を通して、その国民性や教育の在り方を、考えてくることを長く続けたいというのが理念であります。今回も3つの大学、アリートゥスコレギヤ大学、ビリニユス大学、

そしてミコラスロメリスという大学から先生がお越しになって話をさせていただきます。大使館の参事官の方のお話もあります。もちろん、オリンピック・パラリンピックのホストタウンというのが大本のきっかけであり、イベント中日の10月18日には実践ではないが、バスケットを指導していらっしゃるビリニュス大学のトーマス先生が、神奈川大学の体育系の学生との交流を図る予定があります。パラリンピック種目では、ボッチャを市民の方々と一緒になって体育館で行うことになっています。展示物に関しては、7月に平塚市で行ったイベントのものをそのままお借りして展示をします。今回は講演会を通じて生の声を聞きたいということで実施します。

私はバルト三国がなぜ3つに分かれたのかという基本的なことから勉強を始めました。先ほど市長からもありましたロシア（ソビエト）との併合という歴史もありますが、その前では、北のエストニアはスウェーデンと近い関係があり、ラトビアはドイツ騎士団が来てドイツが、リトアニアは国王がポーランドと2か国を治めていたという歴史があり、このことから後年、ポーランドに行ったユダヤ人を杉原千敏さんが「命のビザ」として仲介したんだということが歴史的にも地政学的にも分かりました。そういうことを大学の行事の一環として平塚市民の方々と共有をさせていただければいいなと思います。よろしくお願いします。

#### 【教育長】

グローバル化が進む中、子どもたちが外国に触れるということは、特に小学校に英語が教科となる状況で、英語に触れる、又は外国の文化に触れることはこれから大変に大切なことであると思っています。AETを通じて英語に触れる、外国の文化に触れるということは進めているところですが、別の視点でリトアニアとの交流というのは子どもたちにとって大変有意義なものとなってくるとしています。港小学校にはとても活躍をしてもらっているが、他の学校とも何ができるかを検討しているところです。学習指導要領がここで改訂されたことを受け、英語教育、道徳教育などやるが増えてきている中で、学校も大変なところがありますが、これから何ができるかを試行錯誤しながら交流を深めていきたいと思っています。

#### 【市長】

教育長、各委員からの感想をいただきました。これからは先ほど申し上げましたが、リトアニアとの交流を有意義に進めさせていただければと思います。これで報告事項を終えたいと思います。進行を総務部長にお返しします。

#### 【総務部長】

ありがとうございました。予定をしておりました協議・調整、報告事項につきましては、以上でございます。委員の皆様お疲れさまでした。

それでは、これをもちまして第1回平塚市総合教育会議を終了させていただきます。

なお、次回は2月の開催を予定しておりますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。